



星月夜顯晦録
五編
三

遠13
2208
23



待
13 遠へ
2268
23

星月夜頭海録五篇卷之三

目録

○和田義盛最期合戦一族悉滅亡

朝比奈義秀後殿一々戦場を遁回

○北条泰時仁心長沼五郎実朝の政道を罵

和田の一族由井の淡久梟首の図

星月夜頭海録五篇卷之三

富田三郎剛力を頭一罪科恩免と云ふ

星月夜頭晦録五篇卷之三

和田氏盛最期合戦一族悉滅亡

和田氏盛最期合戦一族悉滅亡... 必死の軍... 雲泥の相遠士卒公指揮... 自身押さる... 美濃足利が手に首を... 傍々木武田波多野... 昭々後陳み引息吹...



死にけり引退り我盛自身の働わのどろれば子息も我男と四方八
面切て回るるもの小条勢あり難く右往左往に散れらるぞ。春時我死の
時即ち我之自ら馬を棄てて即ち逃げり。今も追軍の武士投り加り
これ押付足不出るべし必死の務小向死の場所なるべしを死
馬の口咬えて引込。時房も初退り。和田が勢返付く。小条勢を
討ちと又まし。時に千葉守教官が山内ホの勢を討散し。これ未
小条よ力合ふんころも和田が勢死合。豊村の死よりあも又教を
討ちと殺せり。先刻より味方も退り付死多り。大女勢が一強み。皆
近も我死の死の事なればふま万化して我死小多。家守教官が
勢も極む。故も放し。今も教を退去て一人も在ざれば。皆く息
を休り。子息郎後此の何國も教の死。幕一人もまき付きて

我死せんとも。我盛創りくも我死くも。吾用く先刻の戦小朋
軍故人を打破すれば。我死の働わのどろれば。子息も我男と四方八
面切て回るるもの小条勢あり難く。右往左往に散れらるぞ。春時我死の
時即ち我之自ら馬を棄てて即ち逃げり。今も追軍の武士投り加り
これ押付足不出るべし必死の務小向死の場所なるべしを死
馬の口咬えて引込。時房も初退り。和田が勢返付く。小条勢を
討ちと又まし。時に千葉守教官が山内ホの勢を討散し。これ未
小条よ力合ふんころも和田が勢死合。豊村の死よりあも又教を
討ちと殺せり。先刻より味方も退り付死多り。大女勢が一強み。皆
近も我死の死の事なればふま万化して我死小多。家守教官が
勢も極む。故も放し。今も教を退去て一人も在ざれば。皆く息
を休り。子息郎後此の何國も教の死。幕一人もまき付きて



自叙 刺違思ひに始りて亡失する。その和田義盛頼のち屋敷平
辛万苦の功勞空しく。此友忠義の斗畧も水の泡と消えり。つるれば
天道是の成憐れり。萬代も縁及のなを唱へて思ひを中よりのこと。
二果合終の備ねも邊國の山を居て退く。山を方にとりて教万の云
を以て軍難美する。あつて退く。に義盛又もが自言成つて。今も
あに存命んと。然る自害一死する。あつて死骸の山を居たり。和田が
嫡子新大馬守尉常盛へ。務成進けし。源へ。相盛伊不帰途を
え切し。勇成を表て一方に打破兄弟別々に。まをり。る。義盛は
く。古の事。曾た。古郡保忠が。故大勢に成つ。合戦叶難
り。棟梁の横へ。北行んと一方を打破。あるの。又子始りて自害有
く。速く返り。敵中。小引。入戦。死せんと。思ひ。に。終。業。は。れ

の屋敷平。忠義を空しくせん。然る。や。い。は。せ。あ。り。水。糸。又。子
の中へ。事。も。討。え。恨。を。散。せ。んと。思。ふ。は。ど。も。戦。場。ま。の。討。は。り。と
叶。が。た。め。一。見。此。如。切。抜。討。を。又。合。本。意。成。を。せ。んと。既。に。引
退。の。如。し。も。思。ひ。を。せ。て。嬉。し。め。れ。り。と。ぬ。い。え。り。也。も。自。害
に。及。し。中。我。又。と。伊。不。美。部。の。合。戦。敵。を。破。退。行。小。源。へ。一。回。れ。り。成
苦。戦。して。突。萌。し。透。来。し。と。思。ひ。と。一。先。當。牙。を。退。後。日。の。保。を。あ。り。と
回。り。し。と。中。令。二人。打。連。保。忠。が。本。國。甲。又。古。郡。へ。歸。らん。と。夜。中。た
を。急。甲。列。進。む。り。れ。た。今。の。皆。以。て。敵。中。を。れ。が。勝。時。も。知。を。傳。ふ。こと
終。り。に。つ。き。御。る。れ。が。望。む。日。は。必。成。東。山。波。加。利。の。東。なる。競
石。の。々。二。木。と。云。如。も。保。忠。常。盛。獲。切。て。相。果。り。り。也。其。牙。を。索
首。討。て。謙。人。妻。く。美。出。り。る。期。比。奈。之。郎。義。秀。は。二。三。日。の。合。戦。に

款の偽叛破と十八反款、款討を事、義子万と云、殺款をくば、終日
 終夜、残れども、身に存るも、身ど、乱軍の中に在るが、つらあわ、く
 法善堂、ふり、と款を、追え、く、屋、取、つ、めん、と、る、処、に、去、る、討
 死、義、聖、又、子、も、自、害、し、味、方、患、く、放、亡、し、今、の、戦、場、に、止、る、ま、ら、い、
 義、秀、が、後、卒、も、或、の、計、れ、落、失、り、れ、ば、馬、放、止、く、思、惟、し、士、卒、代、顧
 然、檢、ら、ぬ、出、去、五、拾、務、に、里、ご、り、り、と、款、は、斬、ご、も、突、ご、も、今、殺、万、の
 大、軍、皆、新、ま、た、れ、ば、と、も、法、善、堂、追、列、雖、く、ら、ん、然、が、一、先、退、ん、め、め、と、
 引、返、し、ん、と、ら、ぬ、に、武、藏、相、摸、上、野、下、野、常、陸、ら、と、死、来、る、ゆ、ま、は、不
 ち、た、款、大、宮、名、織、小、町、の、辺、の、款、討、味、方、の、諸、將、に、力、を、併、ん、と、
 其、時、の、義、秀、を、法、善、押、出、し、面、く、相、比、系、が、引、行、な、ん、て、款、を、追、討
 ぬ、ゆ、勢、を、先、と、義、秀、自、後、敵、と、慕、款、を、引、て、後、捧、紙、以、て、敵、伏

打、倒、れ、小、眼、腫、を、赤、し、五、体、を、打、撲、され、微、塵、も、な、る、者、殺、ら、れ、ば、
 も、の、西、く、移、り、を、清、退、ん、と、ら、ぬ、に、款、の、曳、く、声、ら、く、押、来、る、ゆ、後、門、士
 知、と、成、て、混、乱、ら、ぬ、と、大、形、さ、く、此、向、に、義、秀、の、難、は、く、引、な、り、く、鎌、倉
 辺、く、居、ご、り、れ、ば、主、後、船、に、去、る、安、房、國、へ、渡、り、ご、ま、す、款、前、の、因
 着、林、と、云、妙、よ、引、籠、り、孫、此、地、に、残、し、後、年、朝鮮、國、に、入、と、る、是、の
 又、和、田、新、去、津、野、羽、羽、入、道、ハ、力、量、納、比、系、ま、り、及、び、と、大、弓、馬、武、藏、
 技、群、の、精、を、義、聖、が、子、息、等、一、ろ、り、ら、ご、紡、紙、進、く、関、と、日、未、の
 勇、畧、を、殺、し、て、大、款、取、切、抜、前、漢、の、陳、と、ま、り、に、又、を、始、身、を、み、軀、を
 並、て、自、害、し、死、骸、堆、紙、ら、く、大、悲、泣、し、等、く、自、害、と、ん、と、思、ひ、先
 首、を、取、懸、ん、と、す、妙、よ、殺、万、の、大、軍、脚、の、漏、ご、く、身、あ、る、中、も、武、藏、國
 へ、馳、を、な、す、弦、戸、左、衛、門、尉、能、範、伊、具、馬、三、郎、聖、重、真、先、小、進、で、款、向、追

くわりの辰其美子往天物具取却きて我敵に比天後母巴と云路去りまらる
が情思不我一旦判發して佛門に入られし今自供男んを存余こ又
兄弟の善提をも吊ひ折と云後自に又の逆を知らるるを直成す次後男
老一候くじめんふあはと云婚し日未とも信して法の子成すし津遍坊が
草者ふ入る潜栖勢溢行りも和田美堂が妻巴女ハ紙中國の寺院小
入て判發せしが後年九十歳があまづ往生候遂に之の以所方の法軍前後
一押浩えりも和田又子郎従と亡失りれり町々大治へすに及人の降
近於堂を懸亡し若宮は法所の焼ゆを屯し法華堂へ移をに及びる
也小奈我時今心を生代完と云候ゆり候と限るく実羽々ふ一
りら和田美堂又子横山波谷土肥岡崎托原以下の械花伴類悉滅
亡る及勢溢はと云られん君あもい安満有尼公は是處の以方をも候作

きこれ旦八幡へ神社を附しんとく宮内を賜附と氏刑殺重只美に鶴
園の四使者候命と云り今君今又美堂の滅亡候事ゆふと云ゆり
山後みこれゆり山奈我時山城判支行村を以秋味方の討死生捕手負
と改きを改後の首級ハ山奈我時房は実檢せりは和田又子の外横山
黨三十人土屋のく十人山内のく二十人法谷のく八人毛利のく十人
鎌倉のく十三人入交のく二十二人是皆是の者たも生捕る由二郎
を始りし者七人矣率雜に戦死お餘人と云と云所方ハ名は武士
討死五人手負五十八人率雜に討死七十餘人手負ハ散在して知された
一萬人ふ及べしと云和田一族斗の企もく考も逆公のむた津樞とて
本國ハ勢成催と唯鎌倉より事成爲殊又械原候討と先明と逆
ての軍と云即ち之の死傷ハ及和田が武畧の凡るは朝比奈始一族

皇朝御紀卷之三

三六

の武勇は子孫たつが如し。若孫は密に本國小川を経て堂を治ひ勢を催さしめしむ。是又我輩が誠忠を以てしむ。是れ我時下知し。和田父子は預後を首成集逆賊の衆科を以て由井の流に氣首せしむ。不思淺ざう。これ忽ち雲霧濤を以て雷電冷く。天地震動を以て。翌日又自ら雲霧を以て雷鳴して。四を以て。諸人大小忌憚し。是必に我輩父子の亡天怒を以て。私語合々勇氣級倫の人力。鋌小川。たう。新例和漢か。天皇を敬め人の故り。小糸泰時仁心長。沼五郎実朝々の政道と罵。

鎌倉の頃。不兵火に罹り。これ大江廣元の亭。城分候の。此所。君。是。小。秘。せ。ぬ。以。京。政。也。此。夜。の。預。後。治。小。及。之。の。以。牙。を。奏。せ。し。め。れ。勢。溢。小。取。り。せ。ば。此。友。の。孫。及。人。の。文。由。を。取。ま。し。軍。功。の。賞。に。元。ら。是。ん。と。て。先。初。め。切。の。ほ。

海を浦ぞあゆみ妙小。波多野中勢。丞。大。徳。米。町。政。所。亦。の。防。我。先。登。小。進。う。と。と。二。浦。平。六。之。由。新。美。村。系。こ。を。先。登。こ。と。也。双。刀。を。以。て。水。也。大。美。時。波。多。野。を。采。所。小。招。今。夜。上。と。を。以。の。来。の。偏。又。美。村。海。の。忠。節。小。う。れ。也。然。ば。先。登。の。の。の。形。を。編。成。止。う。れ。隱。便。を。存。ら。れ。不。次。の。笑。行。ま。へ。と。宿。々。々。也。大。徳。云。勇。士。戦。場。に。向。い。興。菓。を。以。本。意。也。と。忠。綱。首。も。弓。馬。を。業。と。何。々。夜。と。云。先。登。以。進。さ。ん。や。一。旦。の。賞。小。耽。る。可。の。名。と。稱。な。う。と。は。と。云。先。登。を。以。て。君。由。也。不。以。石。と。ん。と。う。也。大。徳。美。村。氏。心。毒。の。内。に。是。れ。相。列。行。光。也。例。小。侯。一。両。士。の。賞。子。の。亦。坐。小。侯。ト。村。又。及。ち。徳。中。と。う。の。手。の。所。の。小。門。に。攻。ま。る。先。手。の。塩。屋。三。郎。惟。舟。之。味。方。預。離。是。政。石。成。る。先。登。は。塩。屋。が。も。小。打。入。ゆ。と。中。村。之。浦。也。と。い。う。事。此。夜。及。忠。の。故。列。して。諸。士。



和月夜五續卷之三



和月夜五續卷之三
和月夜五續卷之三
和月夜五續卷之三
和月夜五續卷之三

和月夜五續卷之三

以抽で成功以勵さんと心算の外波多野ち保一番の地出るを我と
 我も先登りいし節ち保の地と子息忠時其外郎亦隔られ
 張より系ち保を中さびとやぬち保ちよ怒て我村系とす
 る中へ育用とす。何ぞ君の御用又まんと誓ふ我村地を已小君前
 に奉にるんら行先を以制止し各退去せし其附の戦士亦召出
 尋るに皆善て先登の赤草威の禮韋毛の馬に系とす。是則ち保も
 終り。若天君辺小野中の時。我村育用と稱し。悪言に及頗不致
 に依り賞と聞と息次郎太時恩地を賜とす。五月七日法形を
 百て賞禄以加賜。相別山内小条我内武藏横山の大以廣元上総賢
 小条時房。奥列まを田の修理亮春時。相別法谷小条綱時。但我秀が
 行赤叶を依り召出。常陸佐都の伊賀守親光奥列名取の三浦茂村甲別
 母持とを召出。

波加利の武田冠者其外山城判官金窪玄剛亦小玉と大勢之皆面目と
 能く脱あの中は小条泰内一旦以禮とす。て後皇て居に就て以書下
 と返す奉。恩賞と辞退小及り。其故を以察あれ。伏をす。と偏小
 以免と頼返出の尼公此事成す。見以負の悔さ。取るに者とす
 二所三所の地を賜ふに泰附の若我防禦の働莫とる。に後、の地
 とあり。辞退す。りのるん。是むの。宜く加賜育を。然下と作
 り。由。君泰附。百。され。恩賞。辞退。の伏。を。以。尋。り。に。泰。附。以。以
 浮。此。友。の。効。礼。我。望。法。君。成。恨。ま。す。の。事。に。あ。り。偏。小。恩。父。我。附。老
 終。に。依。り。忘。却。の。恥。と。す。此。我。あ。る。成。悪。で。の。條。系。と。す。も。父。子。の。同。也
 あ。る。ん。が。事。に。よ。り。正。道。を。守。り。我。輩。一。味。も。仕。唯。眼。前。小。又。と。計
 せん。と。切。り。た。い。と。す。と。

右幾よあへん諸士の防戦の君忠と存ての茂を恩賞と賜ふ。素
 何のた有て但小恩賞に就ゆらん唯勅札の基なる衆と責めん
 並々条難有り厚恩もん致らん其入らる地を以てけ反口一も
 怨惠を休る吊の科とらう一も此とるた仁惠と。落涙一もがら
 中らるるも君に感歎深る。右恩賞の諸所一列のそ在梓返育るも
 亡士の吊の奉附がゆかゆべと重た高命取止る成は。吉田の忠誠
 が事との貞神も私用に供せぬ茂也又子其外亡号の公事供奉の料
 亮て。移々の送悼作善成修らる。滅小糸糸の後常の奉附が仁心正
 典よる也。五月八月より法士勝手次第返教と命せられ嫌念の法士
 和田が残黨と尋しめられらるに名あつた亡びるも名もる法士
 ばらぬよ常世入道が事めりられ小糸茂附攝しめんとするも素附

流て彼一人何事とらう然る入道とれば此事忠に違へ不便を
 こそ然べとや。和君の山子に違ひれば早速召あられらる小糸
 糸探て糸上と君の秘伝たりければ後にはれをある時小糸入道
 出の逆切小わらざる有らるに中よりればたををわんと。茂也を
 一之と後朝堂改めあのみと奉仕とまきる作あるの処固く群
 故吊度中と糸信と強く止るは折く法前小糸トは移移嫌を伺ひ
 京外外の由へ行御し。三昧の素懐以違へとも。初又先年
 列へ配流有し和田平左衛門長を配所にて休せしと今度生捕
 進捕と配流亦有ゆ。結城朝光が生捕し。富田三郎ハカ
 割士あへ後日然忘れ罪名改め伊東七郎へ召致。是より泰附君
 辺小糸トは酒宴あり。上上の雑談とらる。序小糸田合戦に富田

と下者信時朝光掬小仕ゆが力そ朝比奈に次む此者悪意あり唯く
茂堂の信茂に泥着擔仕処へ高免有るは是の由承の同君のせは
たるはとやとせられれば百知しそ力を試めんとも伊東へは有早速
囚人を信ひ来る。桑殿西南の美子に度せしめ附小進長長二尺餘方に
して守備もたぎちたる鹿角二本出され此技を一々筆矢へたと作し
されりふ田畏て二の角と度は中なるを醫折さしそを吾は六小感歎
一洞空方又彼より後とあれは餘勢歎ましりるが課科を恩免有る奉成
安堵と信時朝光一班の恩堂の有りがかる副力代掬小せるとは此の
加傍の地以湯い面目成施しりる。お又は所早く造營せしむと夫と余
成奉り。教子の番匠を集成功成ゆられられれば遊々如來に及も
此小三笠山の列當法服矣是使僧を多せしむ。故畠山次郎重直

赤子阿富梨重慶當山の麓に籠居し。守人を集又新衛肝儀と
碎の松子返逆の企もゆえり。和田合戦小川渡されの族多く加
強もあやむる至へ早く心思を成加らるべと有りれば小糸美時始譯後
のく長沼五郎宗政のまはして彼者成生捕まら下。泉小八郎親
平も貞元同黨あり。彼辺小隈存んも知されば成用て止しへと余せ
られれば宗政畏く難之の男八人を殺し私宅も歸りて下野國小池着
る。先私小事の由を尋搜多処に彼傍の重忠没落の時分道立し出る
蒼に志松を修し太浦房重慶と号を給るに畠山が滅亡後南の所
おとて君もも後悔ある成思も尋られぬ。殊に重慶は彼屋の海門
の事何方に信とも外なるべと内へ修りしむ。此度和田合戦のち
備浪人と招仏前成飾敵中を勇立す夜更燧成まら行後成たて。家



三郎
五郎

十三



三郎
五郎

十三

まゝ青女房に麾と持て比丘尼に禮と着せ武勇氣勵きあへと懐こころ
 へ言さう仲兼も興さう一言も及ぶ座臥立りかや政も衣
 仲兼何と云へ肥腹裸通し首打斬ぐりめのこと謔まう近歩と云
 慈君の耳子入流は怒有りか元来聰敏の君は頗奇性の難言られ
 かも彼中一理あるを非は和政と好武修成を訓係とに似れば
 見も外にふら然やう女收のやうと云ふ中と中比丘尼子禮と云
 ると云一の母公は後似と何と場処と云ふ言に及条出仕と止
 直下と作有け言は相まは美討此美を方ふ立彼をれれ和田が
 軍子懲て然し居あ、尼公の口々にあざりくそ後小山丸門射仲
 兼は籠る言才長派五郎宗政の氣をそ氣の腹忍入る彼はと
 用く泉小次郎事とも捜尋集合の者たの烏合あると云ふ

世に神淫を思ふくく斗の如。未とまををまはくく勿心以気及
 をそ承。不承は言よ及知く何來そ承は山怒を宥むさく松の
 打入と宥友仲兼も解君近孤執成やうぞ長派五郎仕を免れと

